

戦争法案3つの大問題

安倍首相は「戦争法案」を「国民の命と平和な暮らしを守る」ためだといいますが、とんでもありません。法案はすべて自衛隊の役割を拡大して、海外派兵や米軍支援にあてるためのものです。憲法9条を全面破壊する「3つの大問題」があります。

①「戦地」まで行って軍事支援 「必ず戦死者が出る」

米国が世界のどこであれ、アフガン・イラク戦争のような戦争を始めたら、自衛隊がこれまで禁じられてきた「戦闘地域」にまで行って軍事支援をするようになります。

そうすれば、相手から攻撃され、戦闘になる——「殺し殺される」危険が飛躍的に高まります。「必ず戦死者が出る」(柳沢協一・元内閣官房副長官補) ことは避けられません。



米海兵隊との共同演習で射撃訓練をする陸上自衛隊員

② 戦乱が続く地域で治安活動 3500人戦死

PKO(国連平和維持活動)法を改定し、形式上「停戦合意」があっても戦乱が続いている所に派兵します。武器の使用も自己防衛だけでなく、任務遂行のためでも許され、武器を使った「治安維持活動」を可能にします。これによってアフガンで3500人も死者を出した国際治安支援部隊(SAF)のような活動に道を開くことになります。首相もこれを認めました。

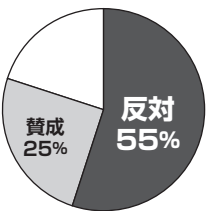
③ 集団的自衛権で武力行使 先制攻撃の戦争にも参加

日本への武力攻撃がなくても、集団的自衛権を発動し、自衛隊が海外での武力行使に乗り出すこととなります。ベトナム戦争のようなアメリカの無法な先制攻撃であっても、「個別具体的、総合的に政府が判断する」(安倍首相)として、

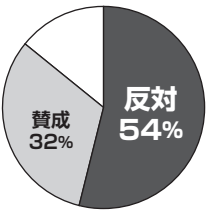
発動を否定しません。そうなれば「集団的自衛」でなく「集団的侵略」。日本が侵略国の仲間入りすることは許せません。

世論は反対が多数

戦争法案の
今国会成立に



【日経】5月25日付



【毎日】25日付

自民元重鎮 首相を批判

安倍政権の暴走を、自民党の二人の元重鎮が厳しく批判しています。
死んでも死にきれぬ

元官房長官 野中広務氏

「わずかでもあの戦争に参加した経験のある私が、あの姿を見ておつて、死んでも死にきれない気持ちだ」
恐ろしい国になった

元幹事長 古賀 誠氏

「まさに権力で決定してしまう。恐ろしい国になっていく」

いつでも、どこでも、米のどんな戦争にも参加

安倍政権の暴走

「戦争する国づくり」ストップ